

# 三重大学

## 財務報告書2013

第10事業年度 平成25年4月1日～平成26年3月31日



# 平成25年度決算のトピックス

## ①安全・安心な教育・研究環境の充実

復興関連事業などにより約44億円の資産増

### 【★耐震化・老朽化対策】

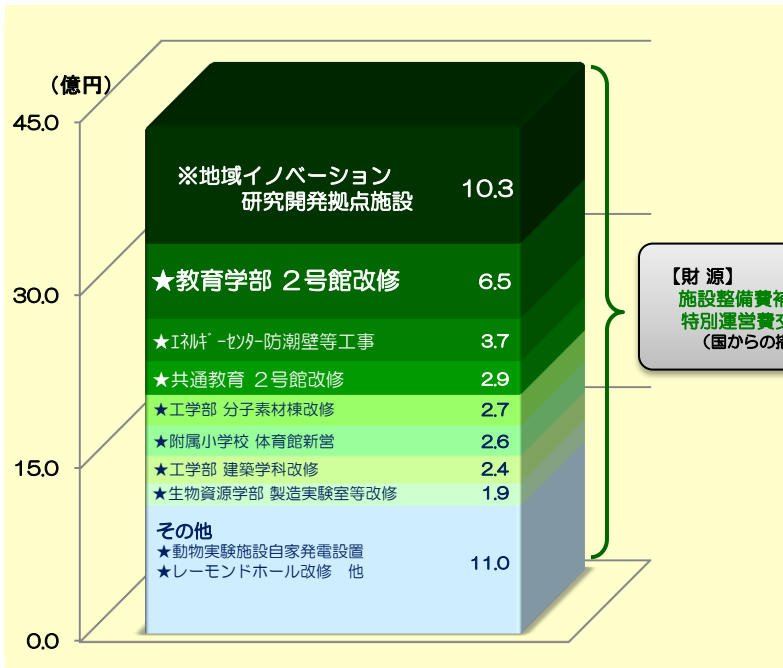
- ①災害時の学生・教職員等の生命を守り、
- ②貴重な教育・研究試(資)料や教育・研究設備の破損等を防ぐため、学校施設の耐震化を進め老朽化を改修

### 【※地域イノベーション研究開発拠点整備】

大学・地域・企業の「力」をつなぎ、三重地域圏の発展を担う人財と地域のイノベーションを生み出すことを目的に整備



施設の安心・安全面が充実し、教育・研究を行う環境がさらによくなりました。  
また、地域イノベ施設は「地域に根ざす」三重大学の新しいシンボルと言えます。  
内田学長



【財源】  
施設整備費補助金  
特別運営費交付金  
(国からの措置)

## ②病院再開発の円滑な実施

附属病院収益 約12億円増 (前年度比)

(主な増加要因)

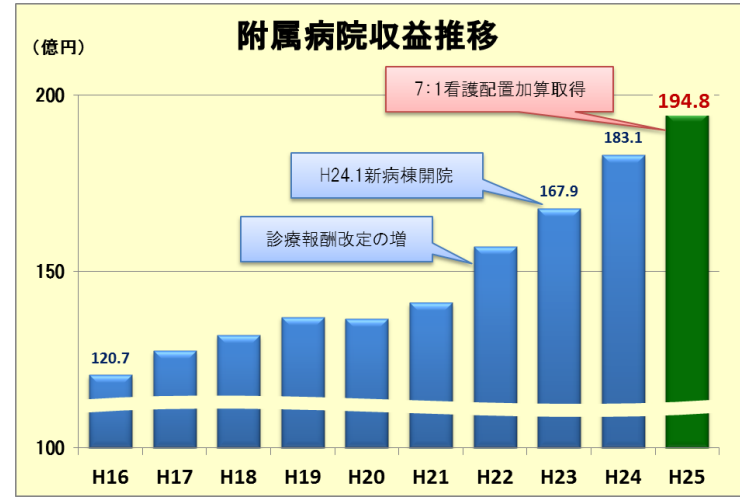
◇7:1看護配置加算の取得

(正式名 7:1入院基本料)

◇病床稼働率の増 (H24: 83.9% ⇒ H25: 84.7%)



診療はもちろん、研究にも力を入れ、さらに地域貢献もできるようスタッフ一同がんばります。  
伊藤病院長



### これからの附属病院

- ◇新外来棟は現在建設中でH27.5月に開院
- ◇安心・安全の基本は崩さず、今まで以上に効率的で患者さんに喜んでいただける診療を目指していきます。
- ◇大学病院としての使命である「研究」「地域貢献」にも力を入れていきます。

### 増加する借入金償還額

◇附属病院再開発の借入にかかる償還額(返済額)は年々増加し、平成28年度にはピークを迎えます。安定的に支払できるよう収入確保に努めます。

# 貸借対照表

(百万円)

	H24	H25	増減
<b>固定資産 A</b>	66,551	68,704	2,153
土地	11,976	11,976	0
① 建物等	38,240	40,366	2,126
② 機械備品 (船舶含む)	10,770	9,038	△ 1,732
③ 建設仮勘定	1,005	2,543	1,537
その他	3,965	3,987	22
無形固定資産	174	166	△ 7
④ 投資その他の資産	419	627	207
<b>流動資産 B</b>	13,264	16,022	2,758
現金・預金	8,466	10,642	2,176
⑤ 未収金	4,288	4,900	611
うち 附属病院収入	(3,365)	(3,561)	(195)
うち その他 施設整備費補助金や受託研究等 にかかる未収金	(923)	(1,338)	(415)
その他	510	480	△ 30
<b>合計 C(A+B)</b>	79,815	84,726	4,911

(百万円)

	H24	H25	増減
<b>固定負債 D</b>	34,845	34,634	△ 210
資産見返負債	9,259	9,425	166
借入金	24,412	24,369	△ 43
リース債務	1,039	688	△ 351
その他	133	151	17
<b>流動負債 E</b>	11,251	14,141	2,890
⑥ 運営費交付金債務	605	1,316	710
寄附金債務	3,006	3,175	168
前受受託研究費等	738	1,007	268
借入金	1,392	1,473	81
⑦ 未払金	4,795	6,306	1,510
その他	711	862	150
<b>負債 F(D+E)</b>	46,096	48,776	2,680
資本金	17,485	17,485	0
⑧ 資本剰余金	11,710	14,248	2,538
利益剰余金	4,524	4,217	△ 306
うち目的積立金	(764)	(530)	(△ 233)
<b>純資産 G</b>	33,719	35,950	2,231
<b>合計 H(F+G)</b>	79,815	84,726	4,911

「建物」「機械備品」等の償却資産には減価償却累計額が含まれており、計上している額は現在帳簿価格です。

① 建物等 **+21.2億円**  
(増加の内訳)  
前年度比  
当期取得額 +43.6億円  
当期減価償却 △22.4億円

② 機械備品 **△17.3億円**  
(減少の内訳)  
前年度比  
当期取得額 +13.0億円  
当期減価償却 △30.3億円

③ 建設仮勘定 **+15.3億円**  
(現在建設中の建物)  
前年度比  
+ 外来診療棟当期増加分 +16.0億円  
(当期に完成し本資産へ振替したものであり)

④ 投資その他の資産 **+2.0億円**  
(有価証券の購入)  
前年度比  
三重県債購入(10年) +2.0億円

⑤ 未収金 **+6.1億円**  
(前年度比)  
うち 附属病院収入  
2,3月分の診療にかかる未収金の増 +1.9億円  
うち その他  
施設整備費補助金や受託研究等  
にかかる未収金 +4.2億円

【附属病院収入について】  
H26.3.31時点の附属病院収入の未収金は約35億円と多額ですが、これは患者負担分を除く診療報酬の入金が診療から2ヵ月後になるためです(所謂：売掛金)  
また、患者さんからいただく医療費の支払いが滞ることがあります。これらの中で債権回収が困難なものを(所謂：不良債権)が約1億円あり、「徴収不能引当金」として計上しています。

## 【国立大学法人会計の特徴】

**固定性配列法を採用**  
・貸借対照表の表記(固定/流動)が逆  
・固定資産の比重が高い電気会社やガス会社等と同じ

⑥ 運営費交付金債務 **+7.1億円**  
(当期繰越分)  
前年度比  
復興関連事業 +4.8億円  
病院再開発整備事業 他 +2.3億円

⑦ 未払金 **+15.1億円**  
(主な増加要因)  
前年度比  
主に「復興関連事業」関連の  
大規模工事等の完了による支払の増

⑧ 資本剰余金 **+25.3億円**  
(施設費等で取得した資産)  
前年度比  
当期取得額 +40.0億円  
当期減価償却 △14.7億円

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しているため計は必ずしも一致しません。  
以下、特段の断りがない限り同内容です。

# 損益計算書

各経費には「減価償却費」が含まれています。

**⑨教育経費 +3.2億円**  
(前年度比)  
講義棟改修や小学校屋内運動場新築などに伴う経費が増加

**⑩研究経費 +5.0億円**  
(前年度比)  
地域イノベーション研究開発拠点施設新築などに伴う経費が増加

**⑪診療経費 +5.0億円**  
(前年度比)  
附属病院収益増加に伴い医薬品・医療材料等の購入が増加

**⑫人件費 △4.0億円**  
(前年度比)  
本学では平成24年7月より給与削減が開始し当期年度まで実施。平成25年度は年度を通しての実施のため前年度より減少

**当期総損失 +4.3億円**  
(前年度比)  
平成25年度も病院にかかる多額の減価償却費が主要因で当期総損失となりました。  
昨年度に比べ損失額が減少しているのは、①附属病院収益の増加と②前年度は旧病棟の取壊し額を計上したことが主要因です。

	(百万円)		
	H24	H25	増減
<b>経常費用 I</b>	38,487	39,293	805
⑨ 教育経費	1,471	1,795	323
⑩ 研究経費	1,529	2,038	509
⑪ 診療経費	13,501	14,008	507
教育研究支援経費	536	417	△ 119
受託研究費等	1,435	1,413	△ 22
⑫ 人件費	18,486	18,083	△ 403
一般管理費	1,116	1,157	41
財務費用	409	379	△ 29
<b>経常損失 K(J-I)</b>	△ 321	△ 104	217
<b>臨時損失 L</b>	552	35	△ 517
<b>当期総損失 O (J+M+N-I-L)</b>	△ 511	△ 73	438
<b>合計 P(I+L+O)</b>	38,528	39,254	726

	(百万円)		
	H24	H25	増減
<b>経常収益 J</b>	38,165	39,188	1,022
⑬ 運営費交付金収益	11,043	10,377	△ 666
授業料等収益	4,149	4,117	△ 31
附属病院収益	18,311	19,481	1,170
受託研究等収益	1,469	1,417	△ 52
寄附金収益	620	646	26
⑭ 補助金等収益	749	893	144
⑮ 施設費収益	228	559	331
資産見返負債戻入	1,002	1,075	72
雑益	590	618	27
<b>臨時利益 M</b>	326	10	△ 315
<b>目的積立金取崩額 N</b>	35	55	19
<b>合計 Q(J+M+N)</b>	38,528	39,254	726

**⑬運営費交付金収益 △6.6億円**  
(前年度比)  
a 一般運営費交付金 △0.9億円  
(大学改革促進係数の減)  
b 特別運営費交付金 △1.4億円  
(病院設備等整備費の減)  
c 特殊要因運営費交付金 △4.1億円  
(定員延長に伴う退職手当の; (△5.0億円)  
(建物改修に伴う移転費の増; (+0.9億円))

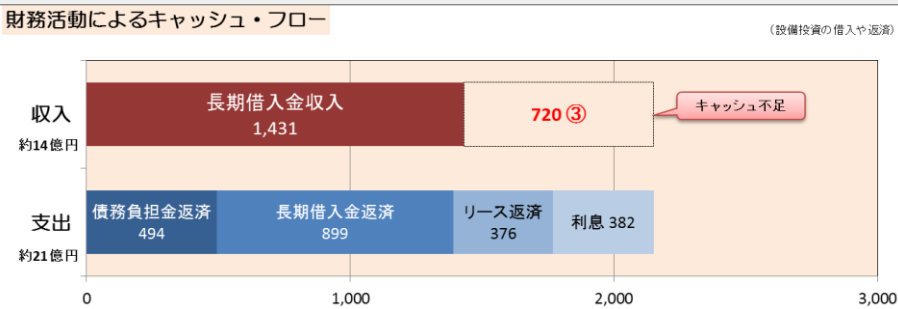
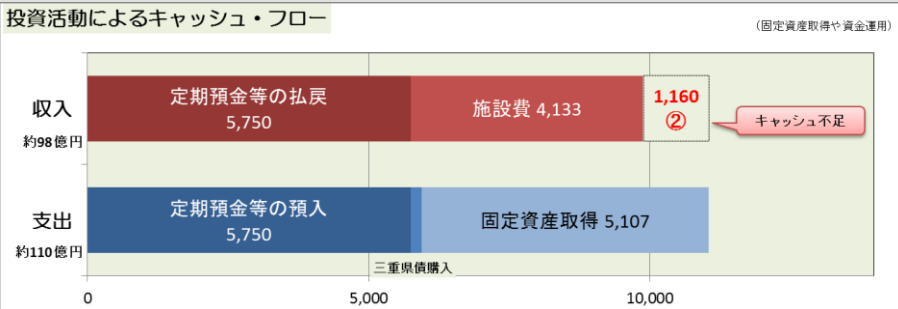
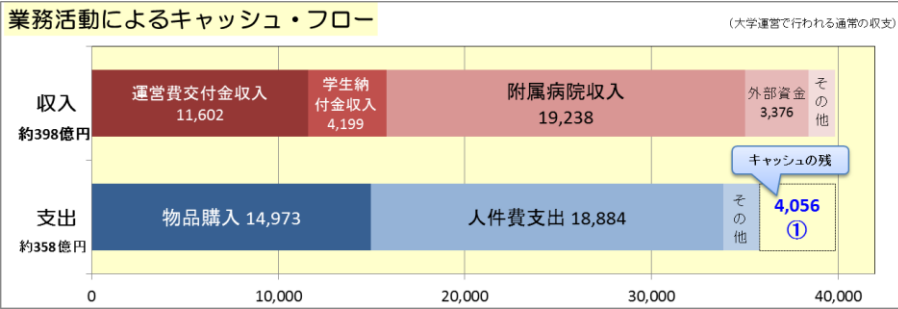
**⑭補助金等収益 +1.4億円**  
(前年度比)  
先進的医療イノベーション人材養成事業  
(研究拠点形成費補助金) +0.7億円  
地域新産業戦略推進事業  
(特別特区推進費補助金) +0.6億円

**⑮施設費収益 +3.3億円**  
(前年度比)  
「復興関連事業」関連の工事にかかる経費の増加分

**臨時利益・臨時損失**  
昨年度は旧附属病院(東病棟)の取り壊しや、附属図書館移転に伴う図書の除却などが重なり、「臨時利益」「臨時損失」が増加しました。

# キャッシュ・フロー計算書

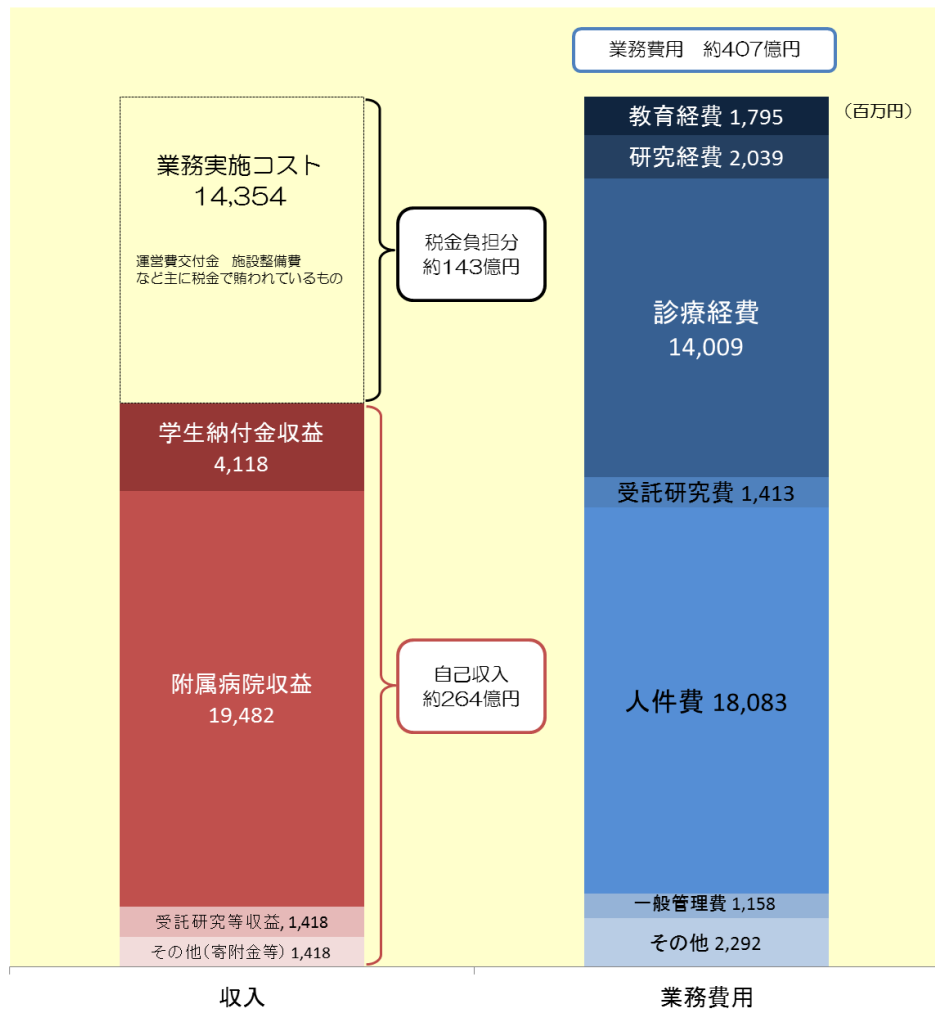
# 業務実施コスト計算書



## 【キャッシュ・フロー計算書】

平成25年度における、資金の収支状況を活動内容別に示したもので、H26.3.31時点での現金の残額を表しています。  
 期末残高では約91億円と多額ですが、これは主に3月に完成した工事等の未払金(約63億円)や寄附金の繰越額によるもので全て使途が決まっています。

- A: 資金増加額 = 約21億円 (①-②-③)
- B: 資金期首残高 = 約70億円
- C: 資金期末残高 = 約91億円 (A+B)



## 【業務実施コスト計算書】

三重大学では効率的な運営に努めておりますが、自己収入だけでは大学業務を行うことができません。  
 大学の業務費用の不足分に充てられる「運営費交付金」や、建物の改修などで措置される「施設整備補助金」など、国(税金)からの支援を得て、大学業務を行っています。



# 国立大学法人会計の特殊な処理

## I. 独立採算制を前提としていません。

① 私たちの目的は「教育」「研究」等のサービスの提供です。 ➡

② 通常業務を行った場合は、**損益が均衡**になる仕組みになります。

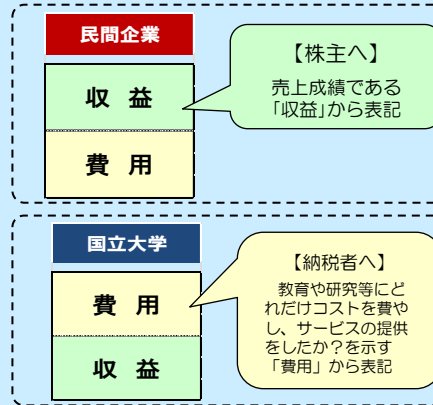


### ◆減価償却相当額を収益にも計上

固定資産を取得するとそれを使用する義務が発生するため、負債勘定である「資産見返負債」に計上します。そして減価償却費を計上する都度、使用義務を果たしたとして「資産見返負債」を取崩し、収益にも減価償却費相当額を計上します。

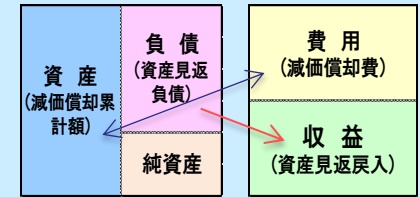
① 目的は「教育」「研究」等のサービス提供

損益計算書 表記比較



② 損益が均衡する仕組み

減価償却費(10)を計上した場合の処理



【民間企業と同じ】  
減価償却費 10 / 減価償却累計額 10

【国立大学特有】  
資産見返負債 10 / 資産見返負債戻入 10

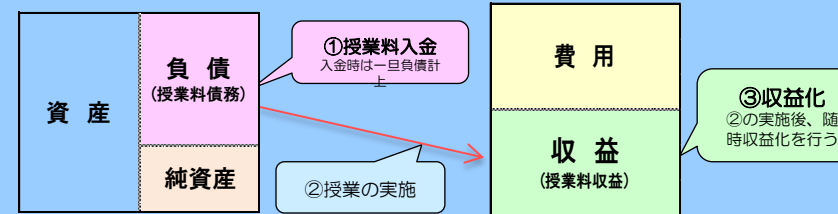
この国立大学特有の処理のため損益が均衡する。

## II. 入金額＝収益額ではありません。

◆ 運営費交付金や授業料などの受入 ⇒ 収益化までの流れ

- ① 入金時点で債務（執行義務）として、一旦負債に計上
- ⇒ ② 授業や各自の研究などを行うことで、義務を実施します。
- ⇒ ③ 義務を実施したことで収益に計上します。

(例) 授業料の受入から収益化まで



## III. 大学病院を持つ国立大学法人の会計は複雑です。

- ◆ 大学病院では患者さんの診察を行うことが目的である上に、その診察に見合った診療報酬を得ることができます。
- ◆ そのため、附属病院にかかる固定資産の会計処理は、上記のような国立大学特有の処理（資産見返）は適用されず、民間企業とほぼ同様の処理になります。

イメージ

【三重大学全体】

～国立大学の特殊な会計処理～

【附属病院】  
企業会計



特殊な「国立大学の会計処理」の中に病院の「企業会計」が混在しているため、一般の財務諸表に比べ複雑になっています。